

# 法親寺新聞

2014年 春彼岸号  
手書き新聞 No.11



こんにちは。釋紗音です。今年も春のお彼岸の時期がやって参りましたが、お彼岸については何度か書かせて頂いたので、今回はお釈迦様について書きます。皆様は、涅槃(ねはん)という言葉を知っていますか？ 涅槃とは、サンスクリット語で(ニルヴァーナ)といい、吹き消すという意味があり、煩惱の火が吹き消された悟りの境地を表しています。直接「亡くなること」を意味する言葉ではありませんが、お釈迦様の死を意味する言葉で使われます。お釈迦様が涅槃に入られたのは、2月15日、80才の時でした。沙羅双樹の下で頭を北に向け、右脇を下に向けて横になられました。インドでは、昔から北枕は教養のある人の寝方だったのですが、いつの間にか現代の日本では、死人を寝かす方角だから縁起が悪いという考えが浸透してしまったのです。お釈迦様の入滅には、弟子だけではなく、様々な階級の人々や動物や虫までもが最後の説法を聞きに訪れ、死を悲しんだそうです。2月15日のご命日は、『涅槃会』と呼ばれ、お釈迦様を偲ぶ法要が行われています。



★今回は、私達が普段使っている、矢口と系内得、面白い仏教語をあげてみました。

## 舍利(シャリ)

舍利はサンスクリット語で(シャリーラ)といい、体や遺骨を意味する言葉です。お釈迦様の遺骨は仏舍利(ぶつしゃり)と呼ばれています。お釈迦様が亡くなった時、その遺骨を求め、八つの部族が争った結果、分骨してそれぞれの国に持ち帰り、塔を建てました。それから後、更に分骨され、インド各地に沢山の塔が建てられたそうです。寿司屋の白いご飯を(シャリ)と呼ぶのは、銀飯の艶やかな色や形が仏舍利に似ていることから付けられたそうです。

## 有り難い

文字の通り、有るのが困難、乏しい、滅多にないという意味の言葉です。世界には、人間だけではなく、動物や植物、微生物など、私達が想像している以上の生き物がいます。その中で、人間として生まれ言葉を喋り、便利になった世の中で生きている私達の存在は、本当に稀で、奇跡的なのです。そして今、仏の教えを聞かせていただいていることも、稀で貴重な出来事なのです。色々な因縁や先祖のお陰で今ここに居る私達は、色々なものに有り難いと感謝して命を大切に生きていきましょう。

皆さん、こんにちは。  
フィギュアスケートの浅田真央選手に対する政治家の失言や公共放送の会長の就任会見での発言がニュースや新聞に賑わっていますが、昔から「口は重宝」とも「口は災いの門」とも言われているように、使い方一つで抜き差しならない問題と成りかねません。今回の問題は、そのことを如実に表わしているでしょう。  
有名人に限らず、私たちにも当てはまる問題です。  
仏教では、十悪という教えがあります。身に三つ、口に四つ、心に三つ(三業)の三側面から認められる取り分け悪い10の行いを言うのですが、その中で口の四つというのは妄語(もうご)・綺語(きご)・悪口(あくぐち)・両舌(りやうぜつ)の四つで、妄語とは虚言を言うこと、綺語とはおべんちやうを言うこと、悪口とは悪口(わるぐち)を言うこと、両舌とは二枚舌を使うことを言います。私たちが生まれつき口に持っている煩惱のことです。口の中に入れた針を針をいっぺんに詰めて込んで不用意にもらす一言一言がどれだけ多くの人を刺していることでしょうか。仏教とは、自分に目覚め、人間の本质を知ることです。教えの大地をしっかりと踏みしめ、二度とない人生を歩んで行きたいものです。



Q... どうして仏飯をお供えするのですか？

A... 私達は、色々な命の恵みをいただいて生かされています。そのことに日々感謝をするために、代表して昔から日本の主食であるお米をお供えし、仏様のおさがりとして仏飯をいただくのです。お米を炊いた時だけで良いので、必ず炊きたてを1番にお供えしましょう。そして、手を合わせていただきますを忘れずに。



↑ 本願寺 御正忌報恩講

↑ 法親寺 御正忌報恩講

## お知らせ



春季永代経法座  
●日時●平成26年4月27日(日)午後1時～  
●場所●法親寺本堂  
●講師●黒田真隆 師(兵庫県宍粟市安楽寺住職)  
駐車場は隣接及び臨時駐車場 玉野高校をご利用ください。